

## 「感染・療養状況、大阪モデル緑色信号点灯、及び 府民等への要請」に係る専門家のご意見

専門家	意見
朝野座長	<p>○感染状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全数届出見直しがなされたため、以前との単純な比較はできないが、検査陽性率、入院患者および重症患者数の減少が続いており、<u>全体の感染者の減少傾向も続いていると判断できる。</u></li> <li><u>新たに懸念される変異株の国内での増加も現時点では検知されず、この減少傾向は当面続くと考える。</u></li> <li>第 6 波では外来診療が逼迫したため、12 月に向けて、インフルエンザと新型コロナ感染症の第 8 波に備えて、<u>新たな医療体制を構築する短い準備期間と考え、可及的速やかに発熱外来の増加を促進すべきである。</u></li> <li>致命率は第 6 波から第 7 波で低下し、季節性インフルエンザに近づいていることから、<u>出口に向けた具体的な医療体制を想定して、ポストコロナの医療体制の設計を進めるべきである。</u></li> <li><u>オール医療体制の実現は、5 類等への変更後に移行するのではなく、変更前に実現するという方針が、安全な医療のためにも必要。</u></li> </ul> <p>○療養状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用病床数が順調に減少してきており、第 6 波に比べ第 7 波では感染者数が増加したにもかかわらず死亡者数、致命率も減少した。</li> <li>第 7 波では病床使用率 80%、宿泊療養使用率 70%と<u>これまで以上に効率的な運用がなされたことが評価される。</u></li> </ul> <p>○緑信号点灯について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に決定した基準に従って、<u>緑色信号の点灯は妥当である。</u></li> </ul> <p>○府民等への要請内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発熱外来の逼迫が予想されるため、<u>高齢者に限らず全年齢層にインフルエンザワクチンの接種を、強く推奨する必要がある。</u></li> <li>新型コロナウイルスワクチンの種類が、オミクロン株 BA.1 の二価ワクチンと、BA.5 の二価ワクチンの 2 種類が混在して使用されるため、<u>混乱が起こるかもしれない。</u></li> <li>ワクチンの次の株への効果を予想することが難しいため、<u>むしろ接種時期の推奨が接種率を上昇させると考えられる。接種時期としては、第 8 波の流行がこの 2 年間の経験から 12 月からと予想されるため、その 1 か月前までの接種が望ましい。</u></li> <li>この時期はインフルエンザワクチン接種とも重なるため、<u>具体的な接種スケジュールを医師会等と協議することが求められる。</u></li> <li><u>小児のワクチン接種の促進には、両親、保護者への安全性と有効性、必要性の情報の提供が必須となる。</u></li> <li><u>親のワクチン接種が子供の接種と関連するとの報告があり、30 代前後の世代の 3 回接種率の増進も対策となりうる。</u></li> </ul>

専門家	意見
掛屋副座長	<p>○感染状況について 全国的に新型コロナウイルス感染症の新規陽性患者は明らかに減少しているが、大阪府下では、未だに1日2000～3000人台の新規陽性者が続いている。全数届出見直し後1週間の新規陽性者の年齢区分は、全数届出見直し前と大きな変化はないとのことであるが、<u>今後も自己検査にて陽性と判明し、陽性者登録センターに登録された方のモニタリングや検査件数、陽性率等の把握を続けていくことは、今後の流行の波を早期に捉えるために重要と考える。</u>3回目ワクチン接種は、全年齢で6割弱、30代以下では5割を下回っている。オミクロンBA5対応の新規ワクチンが認可されたことより、<u>さらなるワクチン推進のため、行政からの働きかけが期待される。</u></p> <p>○療養状況について 病床利用率や病床運用率、宿泊利用率も減少傾向で、落ち着いている状況と考える。第7波はオミクロン株（BA5）が主流となり、重症化率や死亡率は従来より低下してみえるが、第7波でも70～80歳代に重症患者や死亡例が多かった。また、第7波の死亡例の中にワクチン未接種者が一定人数いることは残念である。<u>高齢者への3回目、4回目ワクチンの推奨や病院・高齢者福祉施設では、感染対策を継続することが期待される。</u></p> <p>○緑信号点灯について 病床使用率や重症病床使用率等の基準を満たしており、大阪モデル「警戒解除（緑信号）」に移行することに賛同する。今後、全国や海外の流行状況、新規ウイルス株の蔓延状況等を早期に捉え、流行の兆しが把握できた場合には、早期に警戒信号の変更をお願いしたい。</p> <p>○府民等への要請内容について 今冬は、新型コロナウイルスとインフルエンザとの同時流行が危惧される。<u>小児を含め、全府民に対して早期の新型コロナウイルスワクチン接種（3回目～）を呼びかけることに賛同する。</u>インフルエンザワクチンに関しては、高齢者のみに関わらず、すべての年代にワクチン接種を呼びかけることも検討いただきたい。インフルエンザワクチンの感染予防効果は限られるものの、重症化予防には重要である。従来、インフルエンザワクチンを接種しなかった一部の人々もコロナ禍でワクチンの重要性を改めて認識したことと考える。<u>企業や学校・団体等におけるインフルエンザワクチン接種推奨の呼びかけを期待する。</u> また、インフルエンザの感染対策は新型コロナウイルスと同様で、飛沫、接触感染対策である。インフルエンザにおいても家庭内伝播や施設内伝播のリスクは高く、引き続き、<u>基本的な感染対策の継続を呼びかけることが期待される。</u>また、同時流行が起きれば、発熱外来が逼迫することが危惧される。<u>府民への発熱時の対応の呼びかけとともに、発熱外来を担当する医療機関のさらなる充実をお願いしたい。</u></p>

専門家	意見
木野委員	<p>○感染状況について 新規の発生数は明らかに減少しています。現場での感覚も資料 1 で示されている通りです。</p> <p>○療養状況について 軽症中等症の病床使用率は当院でも 22%程度を推移しています。重症患者については現在当院では 0 です。</p> <p>○緑信号点灯について 資料 1 に記載された状況と当院での感染、療養状況から<u>緑信号の点灯に同意します</u>。ただし第 8 波発生の可能性は否定できません。今後の感染状況により、いつでも黄色信号へ移行できる準備は必要です。</p> <p>○府民等への要請内容について <u>府民への要請について、資料 3-1 に記載の内容に同意します</u>。</p>
忽那委員	<p>○緑信号点灯について <u>感染者数の減少、医療機関における入院患者の減少により、大阪府内の感染状況は落ち着いてきていると考えられる。</u> <u>緑信号点灯については妥当と考えられる。</u></p> <p>○府民等への要請内容について 第 7 波では重症化率は低下したものの、感染者数が増えすぎたことにより多くの死亡者が出た。 第 8 波への流行に備えて、被害を最小限にするためには、 ・<u>オミクロン株対応ワクチンの接種を進める</u> ・<u>小児のワクチン接種率を高める</u> という対策が必要である。特に小児のワクチン接種率については、全国と比べても低い接種率である。医療機関の濃厚接触者・感染者の多くは家庭内感染であったことも考えると、小児のワクチン接種率を高めることは極めて重要である。 <u>経済の活性化のために緩和を進めていくことも重要だが、ワクチン接種を進めることとセットで行うべきであることについて、府民への情報発信をお願いしたい。</u></p>

専門家	意見
白野委員	<p>○感染状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全数把握が中止となったが、現時点では届け出数に大きな影響はないようである。</li> </ul> <p>ただ、若年層を中心に、煩雑などの理由で登録センターに登録しない人が一定数いると予想される。</p> <p>これまでの波でも流行の初期にはまず若年輕症者の数が増える傾向にあった。<u>若年層での増加を確実にとらえられるよう、登録されていない感染者数がどの程度いるのか、推測することも必要であろう。</u></p> <p>医療・介護従事者は若年で軽症であっても申告し、比較的正確に把握されるので、医療・介護従事者の欠勤者サーベイランスも有効なデータかもしれない。</p> <p>○療養状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では病床に余裕がある。</li> </ul> <p>ただ、コロナの重症度に関わらず、入院を要する基礎疾患が複雑である人、熱性けいれんなどの小児、妊婦、透析患者、精神疾患患者、介護を要する人の入院先が見つかりにくい傾向は続いている。高度医療機関にこういった患者が集中すれば他の疾患の入院患者にも影響が出るため、<u>引き続き重症度や患者背景に応じて分散させることも必要であろう。</u></p> <p>○緑信号点灯について</p> <p><u>「警戒（黄信号）」から「警戒解除（緑信号）」への移行については、賛成する。</u></p> <p>○府民等への要請内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン接種について、オミクロン株対応ワクチンが接種可能となるまで待っていた人、ワクチンを接種すべきかどうか迷っていた人もそれなりに多いと思われる。</li> </ul> <p><u>オミクロン株対応ワクチンが接種できる場所、ワクチンのメリットなどを周知し、待っていた人、迷っていた人が速やかに接種できるようにしていただきたい。</u></p> <p><u>特に 65 歳以上の方、基礎疾患がある方などハイリスク者へのアプローチが重要である。</u></p>

専門家	意見
高井委員	<p>○感染・療養状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連日の新規陽性者数は減少傾向が見られ、病床使用率（重症、軽症中等症）も低位で推移している。<u>感染の波がどこまで下がりきるのか判然としないが、下げ止まっている印象を受ける（第6波の終盤と同じ印象を受ける）。</u>気温の急激な低下や接触機会の増加（秋の行楽シーズン、連休等）でリバウンドが生じる可能性は依然として残るため、引き続き動向を注視する必要がある。</li> <li>・今般の陽性者登録センター設置と全数登録への尽力に感謝したい。登録が確実になされるよう、本会では会員向けに陽性者等へ配布するためのリーフレットを作成・周知した（9/21付）。大阪府でも各種資料を作成いただいているが、<u>対象となる陽性患者の登録がなされるよう、引き続き広報をお願いしたい（10/5付で府知事宛要望済）。</u></li> </ul> <p>○緑信号点灯について</p> <p>全数把握ができない状況下において、現在の感染者数の数は想像以上に多い可能性がある。<u>第7波の波の大きさは減少してきているものの、第6波の際と同様に収束し切れていない中での緑信号点灯には、（更なる）慎重な判断が求められる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の意見照会でも記載しているが、<u>どのような状況下であれ感染拡大の兆候が見られれば速やかなアラート発出をお願いしたい。</u></li> </ul> <p>○府民等への要請内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の症状増悪を防ぎ、再拡大を少しでも遅らせる、または規模を小さくするためには、<u>ひとりでも多くの府民に新型コロナウイルスのワクチン接種への理解を進めることが重要である。</u>今回の要請事項にもある通り、<u>（高齢者等への）インフルエンザワクチン接種への協力も積極的にお願いしたい。</u>さらに、<u>インフルエンザワクチンの公費接種期間の延長を含め、市町村で柔軟な対応がなされるように働きかけをお願いしたい。</u></li> <li>・新規陽性者数は、減少傾向にあるとはいえ、いまだ2,000人以上を確認する日もある。感染者数の多さに対する府民等の慣れもあり、<u>各種対策が緩んでいる面も見受けられるため、感染防止対策（3密の回避、マスク着用、手洗い、こまめな換気等）の徹底継続を、府民および飲食店等に対し、知事や大阪府からも（改めて）お願いしたい。</u></li> <li>・（職場や学校からの指示で）療養証明書や陰性証明書を求める府民から問合せが入る旨、医療機関より寄せられている。既に大学等や経済界へ依頼されているが、<u>各種証明書類が不要であることに関し、大阪府からの広報を改めてお願いしたい（10/5付で府知事宛要望済）。</u></li> </ul>

専門家	意見
<p>倭委員</p>	<p>○感染状況について  新規陽性者数は減少傾向にある。新規陽性者のうち、発生届が提出されるか又は登録センターに登録した率(直近7日間移動平均のデータに基づく)は、10月10日時点で、86.3%であり、医療機関にて陽性判明も自己による登録がされていない症例が一定数存在していることがわかる。自己検査にて陽性判明した分の確実な登録をも合わせて、引き続き府民に啓発を行っていく必要がある。また、感染拡大の兆候を探知するための見張り番指標である20・30代新規陽性者数の7日間移動平均前日比を見ると連日1未満の状態である。3回目の接種割合は、30代以下では50%を下回っており、65歳以上での4回目接種の割合も70.7%とまだ十分とは言えない状況である。このような状況の中、10月11日より水際対策が緩和される。現在、すでに、特に欧州において感染拡大傾向にあり、新たな変異株の出現、国内流入拡大に十分に留意する必要がある。医学的にワクチン接種が可能な方に対して、オミクロン株対応ワクチン等による4回目の追加接種を引き続き啓発していく必要がある。</p> <p>○療養状況について  病床使用率は10月10日現在において17.4%と引き続き20%を下回っている。また、重症病床使用率も3.4%と引き続き10%を下回っている。また、宿泊療養者数、自宅療養者数も減少傾向にある。さらに、第7波において重症化率、死亡率はこれまでと比較し低下している。引き続き、ワクチン追加接種、早期診断、早期治療を徹底させる必要がある。また、この冬においては季節性インフルエンザとの同時流行の可能性が高いと考えられている。高齢者、小児を中心にインフルエンザのワクチン接種をも進める必要があり、各病院においては新型コロナウイルス感染症と共に、インフルエンザに対する診断、治療体制、病床確保に努める必要がある。</p> <p>○緑信号点灯について  10月10日には、上記に示したように「警戒(黄信号)」解除の目安に到達したことから、<u>緑信号へ移行することは妥当である</u>と考える。今後、新規陽性者数が再び増加傾向となり、「警戒(黄信号)」の目安に到達する場合や、病床使用率等が「警戒」の目安に到達していない場合においても、感染規模や感染拡大の速度・機会の状況を踏まえ、今後の医療提供体制への負担が想定される場合は、「警戒(黄信号)」への移行を遅滞なく検討する必要がある。</p> <p>○府民等への要請内容について  府民などへの要請内容について賛同する。引き続き基本的な感染対策の継続をお願いしたい。また、特に、<u>早期のワクチン接種(オミクロン株対応ワクチンの接種、5～11歳の子どものワクチン接種を含む)</u>を検討していただきたい。さらに、この冬の新型コロナウイルスと季節性インフルエンザとの同時流行に備え、<u>高齢者、小児等はインフルエンザワクチン接種を検討していただきたい。</u></p>